

八次地区まちづくりビジョン

2017～2026

明日に向かって



2017年(平成29年)6月

八次地区連合自治会

目次

八次地区まちづくりビジョンの内容	ページ
はじめに	
ビジョン策定の趣旨	1 ページ
八次地区連合自治会とは	1 ページ
ビジョンの計画期間	2 ページ
地域の状況	
人口の変遷	3 ページ
地域の特色と課題	5 ページ
児童数の推移	7 ページ
前回のビジョンの検証	
文化教育の見直し	8 ページ
環境の整備	9 ページ
福祉の充実	9 ページ
計画の骨子	
川に親しむ	10 ページ
歴史と文化が息吹く花の里山づくり	12 ページ
自然災害に備える	14 ページ
交通網と道路等の整備	15 ページ
農産物の振興	17 ページ
具体的な計画	21 ページ
ビジョンの事業に主に担当する部会	22 ページ
事業計画	24 ページ
推進体制	24 ページ
事業の推進と見直し	24 ページ

はじめに

【ビジョン策定の趣旨】

「まちづくり」とは、道路、公園、建物、上下水道といったハード面だけを捉えがちですが、実はそこに暮らす私たちの生活を取り巻くあらゆる要素を含んだ「くらしづくり」が「まちづくり」であると考えます。

「まちづくり」の実現のためには、行政にお願いしなければ解決できないハード面と、私たちのコミュニケーションでしか解決できないソフト面があり、どちらかが欠けても良いまちづくりはできません。

このまちづくりビジョンは私たちの5年後、10年後の将来像を描き、その実現を目指し、八次地区連合自治会内で暮らす全ての人と協同して取り組んでいくことを目的に策定するものです。

【八次地区連合自治会とは】

八次地区連合自治会は次の単位自治会および常会で構成する連合体です。

南畑敷町	麻原自治会
	麻原東自治会
	掛原自治会
	南大下自治会
	堂山自治会
	山手上自治会
	その他加入常会
畠敷町	下畠敷自治会 その他加入常会
	上畠敷町内会 その他加入常会
	王陽台自治会
四拾貫町	四拾貫町内会
	四拾貫生協団地自治会
	塩迫団地自治会
	大迫団地自治会
	下山団地自治会
	その他加入常会
後山町	後山町内会

各自治会は常会が構成し、常会は各家庭が会員となり構成しています。

八次地区連合自治会は、地域に住む全ての住民により構成されているのです。

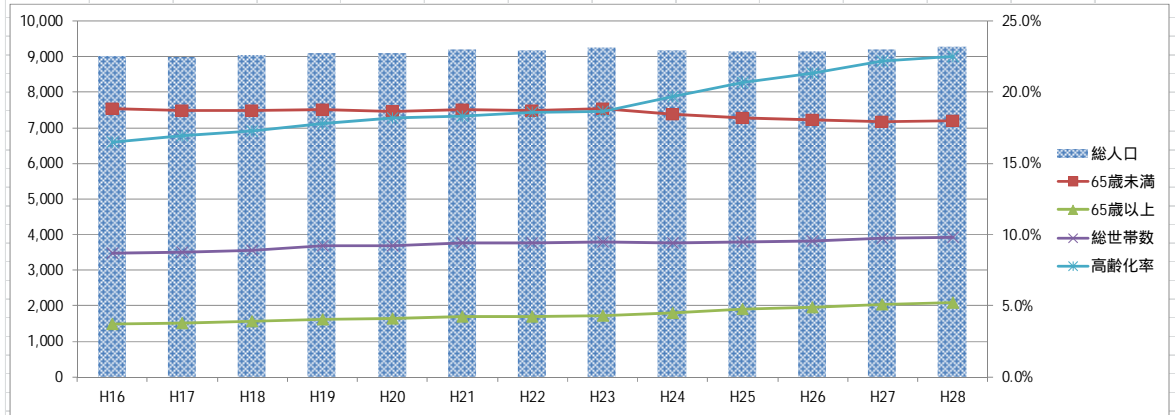
【ビジョンの計画期間】

本ビジョンは、概ね2016年度に策定し、計画期間を2017年度から2026年度末までの10箇年とします。

地域の状況

【人口の変遷】

人口の変遷【八次地区全体】

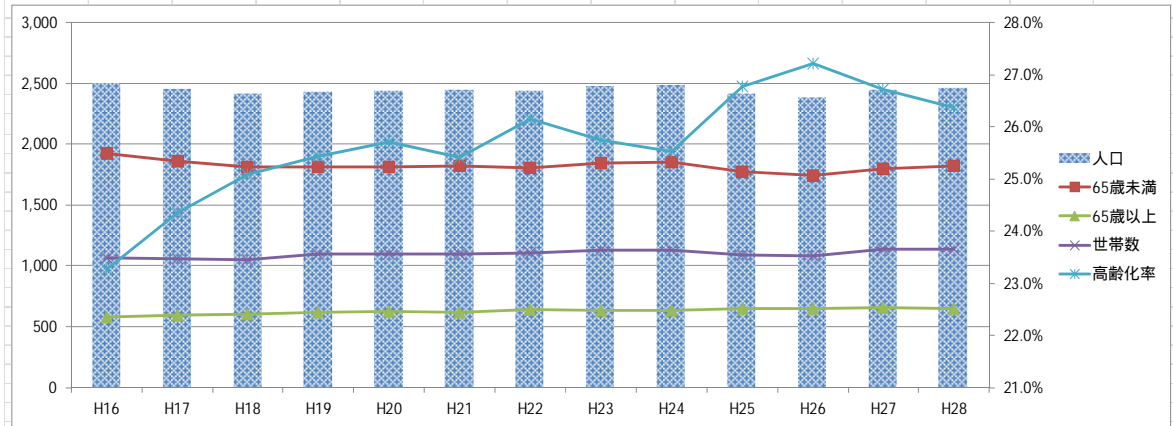


出所：市人口集計表

八次地区全体の人口は、平成16年から28年までの12年間で262人増加し、同様に世帯数も465世帯増加しています。

一方、65歳未満の人口の減少と65歳以上の人口増加がみられ、高齢化率も平成23年度から急激に上昇しています。この現象は、戦後のベビーブーム世代の方が、一斉に65歳を迎えたことによるものと思われます。ことに、軌をいつにして誕生した新興団地ではこの傾向が顕著です。

人口の変遷【南畑敷町】

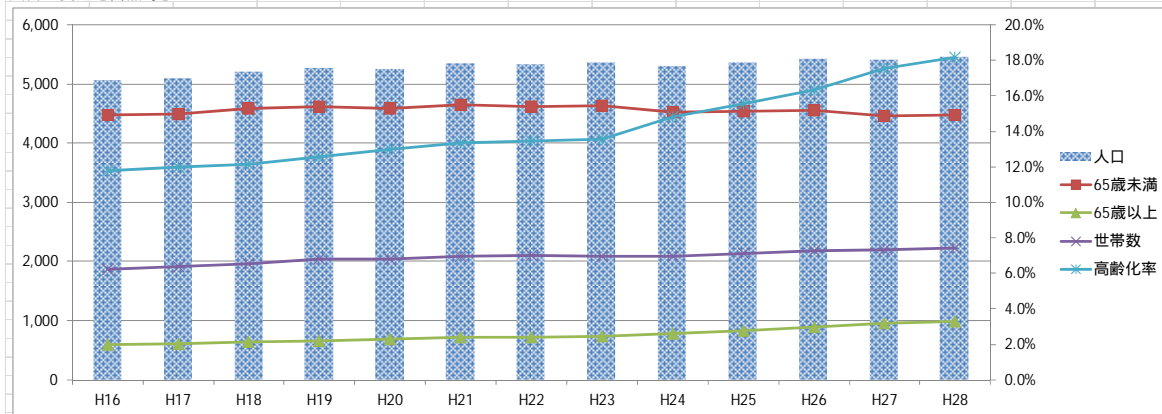


出所：市人口集計表

南畑敷町の人口については、この12年間ほぼ横ばいの状況で推移しています。

高齢化率については乱高下していますが、これは八次地区全体でみると、特別養護老人ホームや有料老人ホームが南畑敷町へ集中していることが要因ではないかと思われます。

人口の変遷【畠敷町】



年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
人口	5,070	5,105	5,213	5,276	5,260	5,355	5,338	5,368	5,316	5,371	5,441	5,417	5,466
65歳未満	4,474	4,494	4,579	4,614	4,578	4,641	4,621	4,640	4,528	4,537	4,551	4,467	4,474
65歳以上	596	611	634	662	682	714	717	728	788	834	890	950	992
世帯数	1,865	1,917	1,956	2,032	2,041	2,092	2,095	2,091	2,084	2,130	2,181	2,198	2,234
高齢化率	11.8%	12.0%	12.2%	12.5%	13.0%	13.3%	13.4%	13.6%	14.8%	15.5%	16.4%	17.5%	18.1%

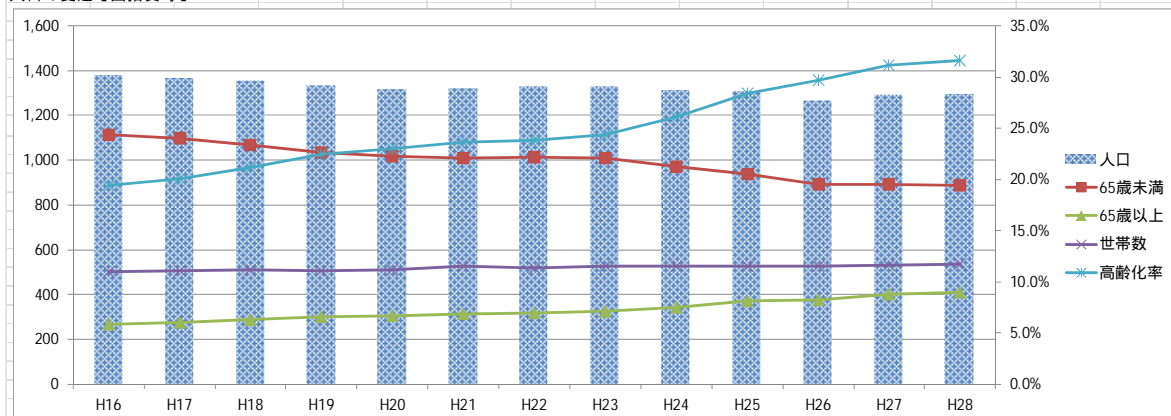
出所：市人口集計表

畠敷町の人口，世帯数は，増加傾向にあります。

教育，保育，買い物など利便性に加え，平成25年3月に中国横断自動車道尾道松江線（尾道道・松江道）の三次東インターチェンジが供用開始されたことなどが作用し，住宅建築の増加とともに世帯数，人口ともに増加しています。

人口は増えていますが，65歳未満の人口は12年前と変わらず，反対に65歳以上人口は増えつつあります。

人口の変遷【四拾貫町】

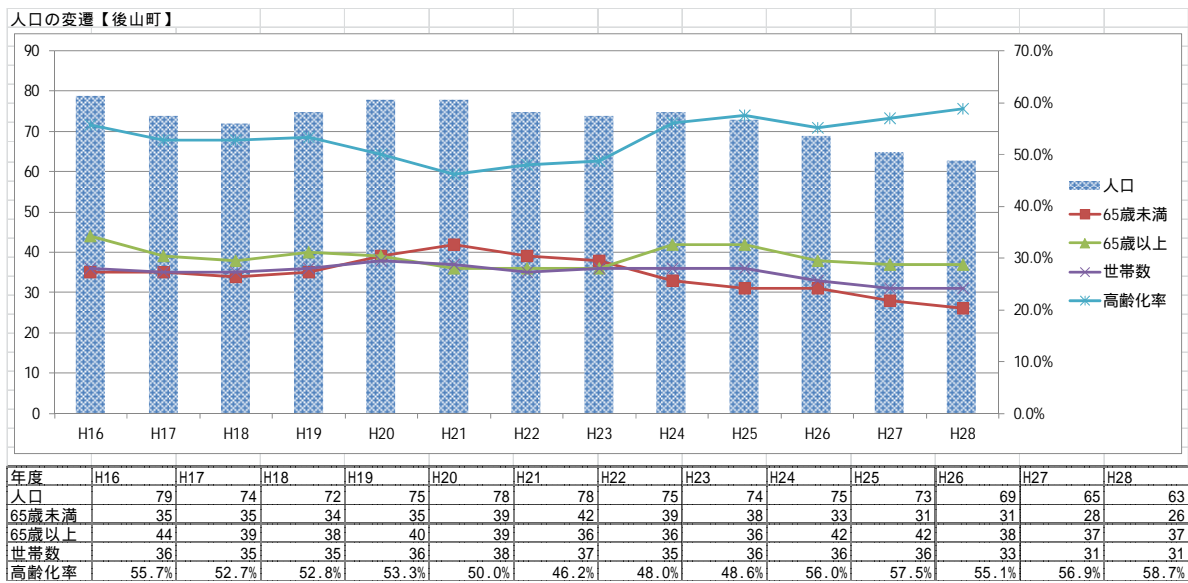


年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
人口	1,383	1,371	1,356	1,336	1,321	1,324	1,331	1,333	1,314	1,310	1,270	1,292	1,298
65歳未満	1,114	1,096	1,069	1,036	1,017	1,011	1,014	1,008	971	938	893	890	888
65歳以上	269	275	287	300	304	313	317	325	343	372	377	402	410
世帯数	501	504	512	508	511	525	519	528	527	525	527	530	534
高齢化率	19.5%	20.1%	21.2%	22.5%	23.0%	23.6%	23.8%	24.4%	26.1%	28.4%	29.7%	31.1%	31.6%

出所：市人口集計表

四拾貫町については，人口，世帯数ともに，ほぼ横ばいの状況です。

高齢化率も平成23年を境に上昇傾向にあり，平成28年では，3人に1人の方が65歳以上となっています。



後山町においては、平成16年から既に高齢化率50%を超えていました。その後、平成21年から急激に上昇しています。

一方、人口も、平成16年は79人から、平成28年には約20%にあたる16人が減少し63人となっております。

20%という数字が大きいように思えますが、後山町だけに限りません。

平成25年3月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口」においても、2040年の人口は全国の約7割の自治体で2010年の人口に比べ、2割以上が減少すると推計されており、私たちが暮らす三次市では実に28.8%の人口が減少すると推計されています。

【地域の特色と課題】

八次地区は、南畑敷町、畠敷町、四拾貫町、後山町からなる市街地エリアです。合併以降三次市内全体を見ると、酒屋地区と並び人口が増え続けています。市内外からの人口異動が続いている特徴ある地区ですが、4町それぞれの特色から八次地区の現状を見てみましょう。

南畑敷町

町の中心を東西に通るバイパスは、市外と市内を繋ぐ主要道路です。バイパス沿いには飲食店や大型チェーン店が立ち並び通りです。市を超えて集客能力の高い地区です。

一方で町の住宅が集中する大規模な団地の生協団地は高齢化が進み、独居状態の高齢者が増えていくことが想定されます。また、畠敷町と同様に大雨時の洪水や内水氾濫等が懸念される地区です。

畠敷町

とりわけ人口が増えている地区です。以前からの住居者に加え、新しい団地の開発、新築等により生産年齢人口が増えています。尾道松江自動車道の開通、

三次東ジャンクションの開設により，レジャー等の利便性は向上しましたが，県道和知三次線の通勤車両，貨物トラック等の運搬車両等の交通量が増加し，通学などに対する危険性や環境面の悪化が懸念されます。

一方で歴史的な資源も眠っています。大昔の古墳群や三吉氏城跡，県・市の指定重要文化財のある，熊野神社，岩屋寺，足利尊氏が建立したと伝えられる仁王門，岩山の中腹にある鎮守白山大権現等多くの遺跡史跡のある歴史の深いまちでもあります。

また，洪水や内水氾濫等や土砂災害が懸念される地区でもあります。

四拾貫町

新たに建設された尾道・松江道の三次東インターが開設された，三次の東の入口です。畠敷町，南畑敷町に比較して農地の多い地区ですが，農地転用後に宅地になり人口増加に繋がっています。

一方で高齢化も進んでいるため耕作放棄地も多くなってきています。

後山町

地区のほとんどを山林，農地が占め，4町の中では高齢化率が50%を超える地域です。

やまなみ街道の整備に伴い，町内の市道も拡幅等改修が進み道路環境はかなり向上しました。

一方で，今後さらに高齢化率が高くなることが想定されますし，耕作放棄地が増える可能性もあります。また，高齢者の交通弱者の増加も懸念されます。

【防災意識の希薄化】

地区の南側には，延長39km，1級河川「馬洗川」が吉備(きび)高原西部の世羅台地に源を発し，北西流して上下川・美波羅川と合流し，本地区を経て西城川・江の川に合流しています。

馬洗川上流の上下川に，平成19年3月灰塚ダムが竣工しました。これまで大雨時には甚大な被害をもたらしていた馬洗川も灰塚ダムの洪水調整機能により，被害が減少し安心して暮らすことができます。

一方，これまで洪水の経験がない住民は，大雨にもかかわらず「安心・安全」ということが「当たり前」になっており，危機意識の希薄化につながっているのも事実です。

八次地区には，自然災害などの有事に住民へ周知する術がなく，サイレンもありません。日ごろから，自宅周辺にどのような危険があるのか防災ハザードマップでよく確かめて，避難場所までの経路，非常食など災害時に備えることが重要です。また，非常時に備えて三次ケーブルビジョンの音声告知放送設備を導入するなど個人で対応することも重要です。

さらに，日ごろからお隣さんとコミュニケーションをとり，有事には助け合える状況を構築しなくてはなりません。

【児童数の推移】

八次小学校は昭和29年4月三次市制発足と同時に三次市立八次小学校となり、地域の変遷とともに児童数も増加してまいりました。

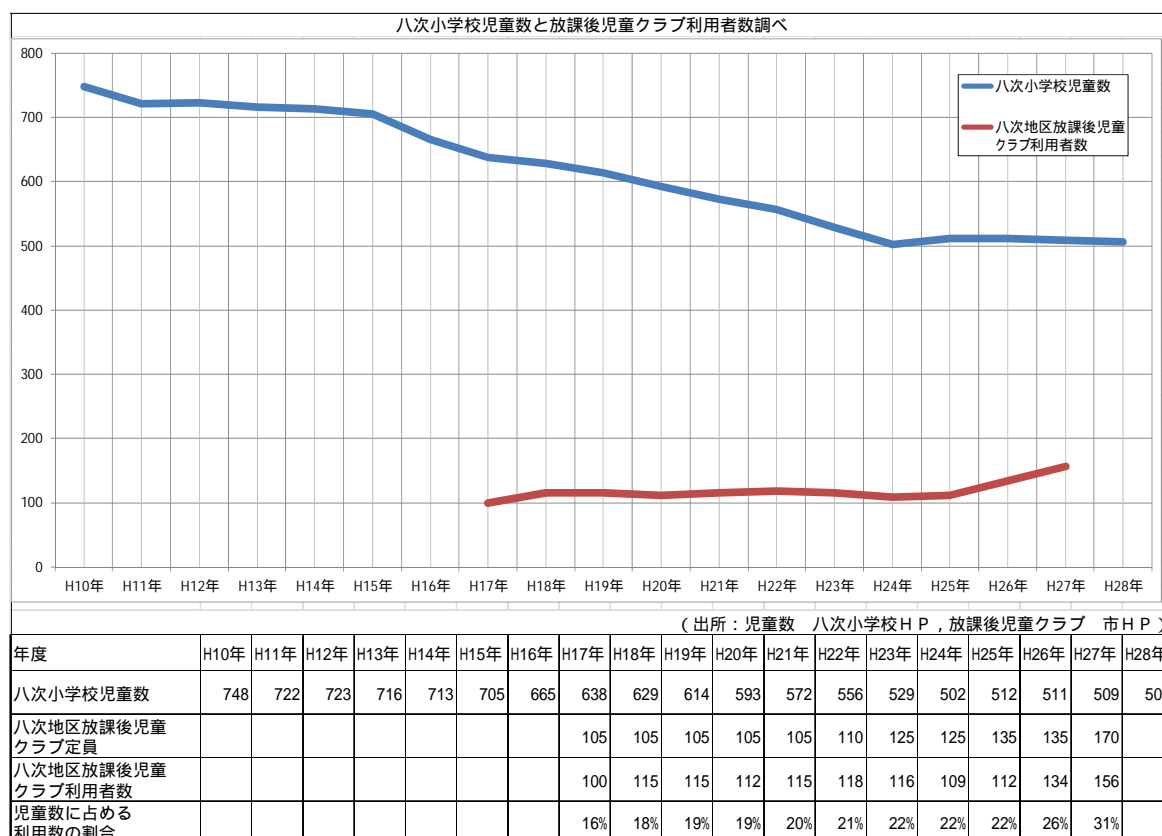
昭和44年度には全校児童227人8学級であったものが、年々増加し平成10年度には748人24学級までに増加しました。

平成10年度をピークに児童数は減少しており、平成28年度には509人20学級となっています。

一方、放課後児童クラブ利用者は、年々利用者が増加傾向にあります。

八次地区では平成16年から28年までの12年間で、262人、465世帯が増加しています。放課後児童クラブの利用者数が年々増加しているのは、核家族世帯の増加と夫婦共働きにより、学童保育のニーズが高まったものと思われます。

今も、南畑敷町や畠敷町では、戸建住宅が新築されており、今後も学童保育のニーズは、ますます高まってくることが予想されます。



・前回のビジョンの検証

担当部会により事業計画の検証を行い、課題を抽出しました。

～ 基本的事業 ～

1 文化教育の見直し

遺跡・史跡の掘り起しについて（地域の子どもを中心とした調査活動）

新規に掘り起こす場合の目標設定をどうするか

掘り起し，ルート作成の場合，地主及び行政との同意が得られるか

住民と自治組織協力による活動について（馬洗川まつり，敬老会等）

単位自治会・常会との結びつきを強くする方法は

諸活動への参加者が少ない

敬老会は，会場の変更で送迎の流れが改善され，参加者増の傾向である

地域住民の親睦・連携について

自治会事業への常会の参加が少ない

当初計画していた事業を一本化した（体育・レク）

参加者が参加しやすい事業の開拓が必要（体育・レク）

自治会役員と地域会員との親睦が十分な部会もある

地域の児童・生徒との交流づくりは達成された

地域の将来像と計画の策定

高齢化率の増加に対する具体的な取組の必要性

現在，単位自治会の結成は小康状態である

地域常会及び住民との会合の場をもち，意思統一を図る必要がある

若い年代の参加がない。若い人が活動できる場を設ける

福祉活動の促進

行事開催の周知不足

民生・児童委員，児童との協力事業は成果をあげている

他地域との交流

他自治会との交流，イベントへの自治会としての参加が無かった

特に北部旧3村（現 布野町・君田町・作木町）のようなイベント等の交流の場がない

生涯学習及び人材育成

役員への青年，壮年層からの活動参加が少ない

講座等の開催は，現状の部屋数等からは限界と思われる

行政，各種団体との協働連携

行政との連携は十分行われていると思う

各種団体（上部団体）への参加はあるが，役員間での情報共有が少ない

歴史，文化，産業の紹介

歴史に関してはほぼ達成。文化の発掘をすべき

地域の魅力づくり（なんでも情報誌の発行）

編集が問題となるのでは

2 環境の整備

下水道の整備で清流河川（ホタルの舞う親水公園に！）

候補場所の選定が必要

下水道整備後に本格化

ジョギングコースの設置（ふれあい・憩いの場づくり）

現在ジョギングコースが一部整備されているが、未整備の南畑敷側の河川敷の整備が急務

熊野橋に歩道をつけて一周できるようにする

歴史ロマン街道整備（遺跡・史跡めぐりで健康づくり）

岩屋寺～比叡尾山～熊野神社への歩道整備

地域環境の整備

ア 現在有志及び一部ボランティアだけが行っている

イ 自治会が行っている事業はある程度達成している

ウ 河川敷のさらなる整備が必要

3 福祉の充実

高齢者への支援活動（女性部会による高齢者支援活動）

- ・小地域サロン活動で、高齢者との交流は成果をあげている

女性サロン活動の充実

- ・八次ふれあい福祉まつりは成果をあげている

その他福祉活動

高齢者福祉施設支援活動（水明園奉仕作業）

活動は成果をあげているが、参加者が固定化している

さらなる会員の加入拡大と活動参加者の増大

八次スポーツ少年団への活動助成

現在行っている活動助成を今後も継続したい

地域住民の理解・協力を得る方法の模索

八次スポーツ少年団の自治会活動への参加分野の開拓

～ 発展的事業～

どの事業も発展的事業（攻めの事業）部分は実施されていない。

新八次地域まちづくりビジョンにおいて作成された事業に基づいて、各年度の事業計画を立案すべきと思う。

・計画の骨子

どの高台からも「三次盆地」が一望できます。その中心部を蛇行して「馬洗川」が悠久な歴史を刻みつつ流れています。この盆地の一角に位置する「やつぎ」は川を挟んで発展してきました。

川に親しむ

当地区は上流部から「新鳥居橋」、大正9年架橋された「旧鳥居橋」、渡し船から吊り橋と変遷し今日に至る「熊野橋」。さらには中国横断道が整備され、「尾道・松江道」の三次東ICから市内への幹線として「願橋」が地域外ですが架けられました。

第1次の「夢みつめ隊」で夢みた「親水公園・すい・すい広場」。そして、河川に沿って歩く遊歩道が整備・完成し、加えて堤防道路脇にトイレと東屋が設置されました。

これらの施設を利用して朝に夕に多くの人たちが行きかいます。さらに広場を離発着に熊野橋までウォーキングコースを往復する人で賑わいます。夏には「馬洗川まつり」の会場として、住民こそって楽しんでおります。



願橋が完成した今、従来の右岸ウォーキングコースを延長して、この橋を渡り南畑敷側をさかのぼり、「旧鳥居橋」を経て再び「広場」に至る、約6キロの周回できる遊歩道へと延伸する整備が第2次では待たれます。その途中で、対岸に渡る飛び石や、沈下橋が設けられたら遊び心が踊ります。

また、広場の「ワンド」から、県下でも稀有な多くの渡り鳥が飛来する中州に渡り、探鳥や水生生物の観察など、豊富な自然を身近に味わえる遊歩道の開削や、対岸へ飛び石か沈下橋で渡りながら四季折々の変化が満喫できる「親水公園のさらなる拡張」がなされると、水辺で遊ぶ子どもたち、健康増進・維持をめざしてウォーキングに励む人と、さまざまな人たちの憩いの場として多くの活用が見込まれます。



さらには,馬洗川の流れを堰止める八次井堰から来源橋の間の約 600 メートルは流れが止まり,ボートやカヌーを浮かべる格好な場所と思われます。古くは,ひと,ものが廻船によって行き交った水運の風情を,形を変えて特に若者の交流や家族連れで賑う船遊びの地としての再生が地域のイメージアップにもつながります。

三川合流部周辺の未来像 (案)



※この図はイメージです。
実際と異なる場合があります。

歴史と文化が息吹く花の里山づくり

「行基上人」が修行の聖地と見いだされたと伝わる「岩屋寺」。峰を挟み、鎌倉時代から「一所懸命」に築城がはじまった「比叡尾山城」、そして追手道として熊野神社にいたる古道。全山に城郭の痕跡が残る山中にあって、山頂の城址一带に、2015年から「三次市の花の里づくり推進事業」に呼応して、桜と紅葉の植樹をはじめました。山桜の多い山ですが、愛と情熱を持って広大な城域で植樹を継続し、保守につとめ、どこから眺めても春は桜を、秋は紅葉を楽しめる自慢の里山づくりをめざします。さらに、この城址を題材にして、子どもたちに「甦れ中世の城」の創作劇を企画し、語り継ぎ、郷土愛の涵養を図ります。



また、岩屋寺へは、表参道を徒歩で、また、林道を利用して車で迎えることができます。それぞれ利点がありますが、車道、歩道のいずれも保守・管理を欠かすことができません。

特に歩道は、草刈りなどの手入れを疎かにしておくと、直ぐに歩くことができなくなります。文化資源を保守する上でも歩道の整備は計画的に行わなければなりません。



自然災害に備える

川が流れ、山がそびえる環境は、造山活動のなせる形状です。近年、地球温暖化が説かれ気候変動が顕著な状況で、豪雨による山崩れや増水で内水が排出されず、住宅地に浸水する災害はどこに住んでいても危惧されます。

危険個所の改修や増水対策などはもとより、八次地域版防災ハザードマップの作成や自主防災組織の機能化による災害発生時の緊急対応を構築し、備えることは急務ですが、何より、日々の隣り近所の「声かけ」を基に、非常時における緊急避難の経路なども話し合い、実際に歩いて確認を繰り返えす「常時活動」が必要です。人と人をむすぶ糸が絆となり、地域力を培い、「安心、安全」なまちづくりへとつながります。



交通網と道路等の整備

市内に点在する公共施設や商業施設などの利用に、円熟した社会にあっては、高齢者や子どもたちは公共交通機関の確保が必要です。これは、前掲の人口推移で示すごとく、可及的速やかな対応が迫られています。

まず、「願橋」の架橋を機会に、この橋を中心にして畠敷側から十日市地区、三次地区を経由し、この願橋を再び渡り、南畑敷から四拾貫、畠敷に至る八の字形に内回り、外周りと循環する「市民バス」的な運行が、都市機能の円滑な利用に欠かせません。



さらに、幹線の増加する交通量に対する渋滞解消や通学路の安全確保が必要です。また、幹線を外れると細い道となり、緊急車両の走行に難航する個所が多々あります。離合個所の確保と拡幅を、さらには、狭い道が交差する個所の隅切りなどを施して、公共下水道事業の早期整備も合わせ、安全で快適な住環境の整備が急務です。



さらに、後山地区から穴笠町への道路整備が進捗する現在、早期に全線を整備することで、冬場の難路の解消を図るとともに、大きく外環状道路網が出来上がり、格段に利便性が向上することが期待されます。



農産物の振興

「農業」は時の経済に左右されてはならない基幹産業です。どの時代にも「食」は必要不可欠です。当地域の農産物の生産，後継者の育成はもとより，耕作農地の確保は環境保全の視点からも重要です。

「地域の特産物」生産に，幼児や児童，住民の農業体験や食育など多面的展開を模索しながら基幹産業の育成，振興を図っていきます。



子どもたちの夢

グローバル化する世の中であって、「やつぎ」で育つ幼少期の日々が，ひときわ輝き，未来をつむぐ「子どもたち」の夢の実現へ歩を進めるためにも，ここに八次中学校1年生の総合的学習の授業における，住みよいまちづくりの「提案・グットタウン三次」の一考察を掲げます。

この学習は，ふるさと「みよし」の歴史や自然文化などについて，自分たちで課題を発見し，主体的な学習活動を通して課題解決に取り組むことで思考力・判断力・表現力を高めることを目的に行なわれました。

過去・現在・みらい

古くから，三次を含めた中国山地の暮らしを支えた三つの黒がありました。

まず一つ目は「黒鉄（くろがね）」です。

中国山地では6～7世紀頃から日本最大の製鉄地帯でした。鉄は主に鋤（くわ）や斧（おの），刃物などに使われていました。これらの道具に使われていた鉄は今の製鉄とはちがい「たたら製鉄」というものです。中国山地では江戸時代，日本の製鉄の7割を生産していました。

二つ目の黒は「木炭」です。

木炭は砂鉄を溶かす燃料や家庭での燃料として使われていました。中国山地で盛んだった「たたら製鉄」と関連して木炭は当時の人たちにとってとても大切な資源でした。

三つ目の黒は「和牛」です。

中国山地沿いでは昔から農業が盛んでした。昔の農業では、牛や馬を使った方法が中心でした。そこで、この地域では和牛を使って農業を行っていました。また、山地からいろんな物資を運ぶためにも和牛はとても便利でした。



以上の三つの黒が中国山地の暮らしを支えていました。昔の三次では盛んな産業であり、そのため、たくさんの人が三次に住んでおり、とても活発な土地でした。

しかし、黒鉄（くろがね）は、明治時代になり、鉄の原料が鉄鉱石になりました。特に、20世紀に入り、日本でも産業革命が起こり、世界各地からたくさんの鉄鉱石が輸入され、「たたら製鉄」は衰退していきました。

また、鉄鉱石の輸入とほぼ同じ時期に石炭がエネルギー資源として使われるようになりました。また、1960年代にはエネルギー革命が起こり、木炭や石炭から石油が重要なエネルギー資源となり、木炭が重要なエネルギー資源ではなくなりました。

さらに、農業では日本全体で農家が少なくなってきました。そして、農業の方法もトラクターや稲刈り機など機械を使って田んぼを耕し、収穫することによって和牛の実用性がなくなってきました。

以上のことから、中国山地の暮らしを支えていた三つの黒が必要なくなってきたため、三次市を含め中国山地沿いでは仕事が少なくなってきました。

その結果、若い人が中国山地沿いから都会に出ていく人が増え、過疎化が進行し町の機能が失われようとしています。

今、何とか少子高齢化と過疎化をストップさせることが大きな課題です。では自分たちのふるさとを活性化させるために私たちはどうするのか考えました。

まず、UターンやIターンの人たちを増やすことです。そのために、彼らが生活できる住宅地をつくることです。

次に、三次の素晴らしい歴史的なことと関連した仕事を生み出し、都会の人々が三次で働きたいと思える仕事を増やすことです。

さらに、三次に企業を呼ぶことです。三次は中国自動車道とやまなみ街道が交差する場所であり、中国地方の真ん中に位置します。この場所を利用して東西南北どこに行くにしても便利であるため、工業団地を中心にたくさんの企業を

呼べば、働く場所もあり、若者が地元で働くことができ、人口減少の歯止めになると考えました。

そして、三次や中国山地の伝統的な産業を体験できるようなイベントを開催し、また、それを全国各地に出向いたり、インターネットで発信していけばいいと思います。今でも三次のPRはよくおこなわれていますが、三次にしかないものをもっともっとPRすればいいのではと考えました。



私たちは三次に生まれ、三次のことをよく知っていたつもりでしたが、実際に見聞きし初めて耳にした話ばかりでした。

私たちは若者代表としてこれから三次をもっと活気のある町にするために自分たちでアイデアを考え、どんどん提案していきたいと思いました。

提案の一つとして「古民家を改造してゲストハウスを造る」、題して「オシャレな古民家イン三次」という案です。

宿泊できるのはもちろん、定期的いろんなイベントを開催することもできます。ゲストハウスの外見は和風、内見は洋風で快適な空間をイメージしています。

内装は、昼はカフェで夜はバーを併設し、宿泊客以外にもお客さんが訪れるような工夫もします。また、大人数でバーベキューが出来る大きな庭を作り、宿泊客同士が交流できる場所を設置したいと考えています。

ゲストハウスで行うイベントは、地産地消の意味もこめて、三次の食材を使って料理教室の開催や、婚活イベントや結婚式の二次会などのイベントなどを想定しています。

この企画を実行することで、三次に興味を持ってくれる観光客や宿泊客が増え、若者の観光客も多く訪れます。また、三次の野菜や果物を使った料理でもてなすことによって地産地消も増えます。

私たちは八次地域や三次市全体に視点をあて、1、三次の食 2、観光 3、福祉 4、八次の農業 5、歴史振興という5分野を選び、この中からそれぞれの課題を設定してみました、

今後この課題発見と解決への学習を深めるために、まずは地域の行事やボランティアなどの活動へ私たち自身が積極的に参加し、地域の方との交流を深めることと地域交流で様々な職業の方、地域の方から学んだことを今後の自分たちの進路選択に生かしていくことが必要だと考えます。

2年生になったら職場体験学習があります。1年生で学んだことを、職場体験での活動にも生かして、必ず充実した職場体験学習にしたいと思います。

学習を振り返って

- ・ 地域の方に聞き取りをすることで、新しい発見があった。
- ・ 自分たちが住んでいる所の現状・課題がよく分かった。
- ・ 地元のみなさんのおかげで明るい三次市になっていることが分かった。
- ・ 自分たちの行動が三次の活性化につながると分かった。

・具体的な計画

事業計画

八次地区連合自治会は、昔から農林業を営みながら暮らしてこられた方、八次周辺から移住されてこられた方など様々な住人によって構成されています。

住民同士のコミュニティが十分ではなく、自治会加入率にもバラつきがあります。

私たちは、ここに住む全ての住人と共にまちづくりを進めていくため、自治会への加入や地域活動への参加を促しながら、次の事業を展開していきます。

区 分	基本的事業	発展的事業
川に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉河川清掃及びクリーン作戦 ・河川敷草刈整備作業 ・やつぎ馬洗川まつりの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングコースの整備 ・船遊びの地づくり ・水辺の楽校の活用
歴史と文化が息吹く花の里山づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道・山桜の維持管理 ・歴史的古道の保守 ・遊歩道の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜と紅葉の植樹 ・登山道の改修 ・「甦れ中世の城」の創作劇の作成 ・定期的な草刈
自然災害に備える	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域支援活動 ・地域版ハザードマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険個所の改修や増水対策 ・災害発生時の体制の構築 ・合同防災訓練の実施
住環境整備 (交通網と道路等の整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通防犯活動 ・グラウンド草刈整備作業 ・不法投棄ゴミの見回りおよび回収作業 ・公共施設のトイレ清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型の市民バスの運行 ・狭小道路の拡幅工事の実施
農産物の振興 子どもたちの夢	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作農地の確保 ・農業を通じた食育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の育成 ・地域の特産物づくり ・農業体験の実施 ・PR イベントの開催
福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・寝たきり老人訪問活動 ・福祉支援活動 ・常時の声かけ活動 ・敬老会の開催 ・ふれあい福祉まつりの開催 ・在宅介護訪問活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者の意識調査と対策

組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年健全育成の見守り巡回 ・ 小中学校花壇整備 ・ 児童，生徒見守り活動 ・ 連合自治会未加入者への加入促進 ・ 単位自治会での活動促進 ・ スポーツ教育の育成 ・ 児童，子育て支援部会交流 ・ 街頭共同募金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒との交流の場づくり ・ 小地域の運動会 ・ 他地域自治振興部との交流 ・ 他地域のイベントへの参画
------	--	--

なお，このビジョンに基づいて諸活動がなされ，年度末に検証しながら，長期展望を必要に応じ見直していきます。

ビジョンの事業に主として担当する部会

これは大まかなくくりで，一部会が専念するものではありません。相互で補完しながら円滑な事業の推進を図ります。また，事業内容も限定するものではありません。必要に応じ発生した課題に取り組むことがのぞまれます。

文化振興部会

ビジョンの事業	内 容
歴史と文化が息吹く花の里山づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜と紅葉の植樹と手入れ ・ 登山道の保守と維持
郷土の歴史の伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「甦れ中世の城」の創作劇の企画 ・ その他関連する事業の企画

総務企画部会

ビジョンの事業	内 容
防災ハザードマップの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険個所の確認と対策を行政と連携 ・ 緊急避難先の設定と避難路の策定 ・ 避難訓練
他の部に該当しない事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域自治組織との研修、交流

環境保全部会

ビジョンの事業	内 容
環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの不法投棄撲滅の対応 ・ 環境保全

住民の健全な生活環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住、食、環境の健全対策 ・住環境の改善 ・その他関連する事業の企画
---------------	--

体育・レクリエーション部会

ビジョンの事業	内 容
ウォーキングコースの活用	各コースの策定と運用
地区住民の親善各種スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なスポーツの研修と展開 ・運動による健康維持の方策
	・その他関連する事業の企画

交通安全・防犯推進部会

ビジョンの事業	内 容
交通・安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒の通学路の危険個所の点検と対策 ・隘路個所の対策
交通防犯・安全啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見守り体制 ・その他関連する事業の企画

青少年育成部会

ビジョンの事業	内 容
子どもたちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛の涵養を図る ・体験学習の醸成 ・水辺の楽校の活用 ・学校と地域の関わりを図る
	・その他関連する事業の企画

女性部会

ビジョンの事業	内 容
サロン活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命への意識改革を図る ・小地域でのサロン活動の充実
学校および子育て家庭の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の展開 ・その他関連する事業の企画

社会福祉部会

ビジョンの事業	内 容
社会福祉の充実	・成熟した地域社会のあり方 ・介護制度の変化に伴う地域での支援
	・その他関連する事業の企画

推進体制

まちづくりビジョン推進会議を設置し、事業の推進にあたります。

構成団体については、計画の推進に賛同する有志、グループの参加も可能とします。

事業の推進と見直し

多様な事業があり、実施可能なものから取り組んでいきます。また概ね5年単位で計画の見直しを行います。

平成29年6月 策定
まちづくりビジョン策定委員会 / 八次地区連合自治会
〒728-0006 三次市畠敷町 1722-1
八次コミュニティセンター内
電話番号：0824-63-7604 (FAX 兼用)
E-mail：umatarou@p1.pionet.ne.jp